



2025年5月12日

函館線 長万部～国縫間 列車見張員が作業を行っていた事象について

1. 発生日時 2025年5月9日（金） 0時37分頃

2. 発生場所 函館線 長万部～国縫間 上り線 109k590m 付近

3. 関係列車 貨物列車

4. 概 況

- ・函館線 長万部～国縫間で貨物列車の運転士が可搬式特殊信号発光機の明滅を認めて停止しました。その後、可搬式特殊信号発光機の撤去を待ち、0時48分に運転再開しました。
- ・当日は、グループ会社（北海道軌道施設工業㈱）社員7名（作業員6名、列車見張員1名）でレールを仮置きする土台の設置及び土台へのレール取り卸し作業を同区間で行っており、それらの作業を行うため可搬式特殊信号発光機を設置していました。
- ・長万部～国縫間でのレール取り卸し作業が終了した後、作業員6名のうち5名は、北豊津信号場構内で行うレール取り卸し作業のため、当該箇所から移動しました。
- ・事象が発生した際は、当該箇所に残っていた作業員1名と列車見張員1名が軌道中心から約3m離れた位置（列車に触車しない位置）で砂利整理などの後作業を行っていました。
- ・可搬式特殊信号発光機を設置した状態であったため触車する危険性はありませんでしたが、列車見張員は、本来、見張り業務に専念すべきところ、作業に加わっていたことがわかっています。
- ・本来は、貨物列車が長万部駅を通過する予定時刻までに作業を終了し、可搬式特殊信号発光機を撤去する必要がありましたが、それができていませんでした。
- ・なお、可搬式特殊信号発光機が設置されていましたが、列車の走行にあたり、線路上の安全は確保されていました。
- ・詳細については、現在調査中です。

※可搬式特殊信号発光機：線路内で作業を行っている際に、万が一列車が進來してきたとしても、列車の運転士が可搬式特殊信号発光機の明滅を認め、列車を停止させるための装置です。

5. 発生位置等

